

国際取引法B		教授 吉田 一康	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの選択必修科目 会計ファイナンスコースの専門選択科目 教職科目	科目ナンバリング	23120202 25320231

1. 授業のねらい・概要

国際取引法の基本事項を理解することを講義の目標とします。今や、デパートやスーパーでは、「made in Japan」の商品の方が少ないかもしれません。多くの商品が、国際取引を通じて外国から輸入されたものです。「国際取引法」の講義では、そのような国際取引に関する法律について解説します。

後期の「国際取引法B」では、国際取引法の各論として、インターネット法、国際海上貨物運送、国際海上貨物保険、国際投資等について説明します。また、今後、益々重要性が増してくるとされる英文契約書を理解するために、英文合弁基本契約書や英文特許実施許諾契約書の教材やDVDを使用して、分かり易い解説を心掛けます。

講義の流れから、前期の「国際取引法A」を先に履修することを進めます。また、基礎的な法律知識を必要としますので、「ビジネス法学入門」を履修していることが望ましい。

2. 授業の進め方

①50～60分 配布するレジュメに従って、説明や補足をしながら講義を行います。

②30～40分 配布する練習問題に回答してもらいます。また、質問を受け付けます。

3. 授業計画

1. 講義紹介	9. 英文合弁基本契約書
2. 各国法概要	10. 産業財産権（国際的観点）
3. 申込みと承諾	11. 著作権（国際的観点）
4. インターネット法	12. 国際投資①（国際投資に関する法律等）
5. 国際海上貨物運送	13. 国際投資②（文化摩擦等）
6. 国際海上貨物保険	14. 英文特許実施許諾契約書①（実施条件等）
7. 各国の食文化・慣習等	15. 英文特許実施許諾契約書②（準拠法等）
8. 合弁事業	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各講義の内容に関する参考文献の該当箇所を読んでくること（1時間程度）。講義後、授業内容を復習して、レジュメ及び練習問題の解答を理解しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①各講義で行う練習問題の後に、解答及び説明を行います。②期末試験の後に、解答例を掲示板に掲示します。

6. 授業における学修の到達目標

①国際取引法の概略を理解すること。②英文契約書を理解できるようになること。

7. 成績評価の方法・基準

積極性 20～30%（受講態度等） + 期末試験 70～80%（筆記試験）

A 80点以上 B 70～79点 C 60～69点 D（不可）60点未満

8. テキスト・参考文献

毎回、レジュメと練習問題を配布し、テキストは使用しませんので、特に購入する必要はありません。自習のための

参考文献として下記のを挙げます。

- ①佐野寛『国際取引法』（第4版）有斐閣 2014年（2700円）
- ②石川明編『フレームワーク法学入門』不磨書房 2007年（2400円）
- ③岩崎一生『英文契約書』同文館 1998年（2940円）

9. 受講上の留意事項

- ①法律英語を使用するため、英語の基礎力が備わっていることが望ましい。
- ②私語・態度不良など他の受講者の迷惑となる行為や、遅刻・中途退席などの目立つ受講者については、評価を減点又は受講を制限します。